石炭	(支)	一五、〇〇〇	一〇、二五〇	
鐵	(支)	九、二八七	一七、五七五	
三、輸入增加せるもの		輸入額	前年に比し增加額	
豆類	(支)	三五一、六六六圓	三〇四、一五〇圓	
仝	(關)	三四、七三六	二三、九二七	
胡麻、荏胡麻子及菜子	(支)	五五二、三一七	四九七、七九六	
鳥卵	(支)	一〇二、九二一	三八、三四六	
絲綿	(支)	一、一五八、八二四	六九三、二九六	
獸骨	(支)	九九八、一〇三	九〇、九五七	
仝	(關)	三五、〇七四	八、三〇七	
藁	(支)	八四、五八七	七三、二三七	
肥料油粕	(關)	三、四七九、三三六	二、二六一、六四三	
仝	(支)	九四六、六八五	五二九、〇〇四	
其他ノ肥料	(關)	六〇、七四六	三一、二六〇	

第四章　對支貿易重要輸出品

前來屢述べたるが如く日支兩國間の貿易關係は年と共に密接となり、殊に世界戰亂の開始以來此趨勢甚だ著しく、大正六年度の如き我が對支輸出は前年に比し六割五分を增加し、之を我國一般輸出貿易增加の割合四割一分に比するも、遙かに好成績を示せり。其原因一には歐米商品の出廻り杜絕若くは減退及支那に於ける銀價騰昂等一時的現象によるものありしと雖も、然かも國內に於ては物價暴騰の輸出貿易を減退せしむべき重大原因存したるに拘らず、能く斯くの如き好結果を收め得たりし所以のものは、日本商品の販路次第に支那に擴張せられたると、支那の外國品需要が年と共に增加するによるものにして、今後益對支貿易に留意し、此好結果を維持し且益向上の域に致さしむるの覺悟と、及之が爲めに緊要なる諸般の施設とに怠るべからず。

今大正六年支那海關統計報告に基き支那に於ける重要輸入品の供給狀況を見るに左の如し。

綿布類	九七、〇二四、七五八海關兩	日本五割五分、英國三割一分、香港一割一分	
金巾	二六、二三八、〇三四	英國五割、日本三割	
レーチング	一〇、二九〇、二二二	殆ど全部日本	
綿イタリアン	七、四〇三、五九五	英國七割五分	

日本綿布	六、四四三、五二五	殆ど全部日本	
綾木綿	五、六七六、二三四	殆ど全部日本	
細綾	五、六七三、二二〇	殆ど全部日本	
綾更紗	四、六七四、八四九	日本九割	
綿ラスチング	三、八三六、三七七	英國五割、日本三割五分	
フランネル	三、八三二、三二二	日本七割五分	
綿ヴエネシアン	三、五九六、一四六	英國八割	
天竺	三五四、九四七	日本九割	
綿ポプリン	三、三六九、二二三	英國六割五分、日本三割	
絲染綿布	二、五九六、一五二	日本五割五分	
其他	一〇、〇五二、二一一		
綿織絲	六六、二七五、一〇一	日本四割六分、香港三割、印度一割五分	
普通綿絲	六三、〇五四、九三二	日本四割五分、香港三割、印度一割五分	
加工綿絲	三、二二〇、二六九	日本九割以上	
砂糖	四五、〇九九、〇八七	香港三割八分、日本三割、蘭領東印度之ニ次グ	

精糖	二七、九九五、四五六	日本六割、香港三割	
赤砂糖	七、七八二、九八七	香港八割、比律賓一割五分	
白砂糖	七、〇七七、六七一	香港五割、日本三割	
氷砂糖	二、二四二、九七三	香港五割五分、日本二割	
石油	三三、四〇一、九四六	米國六割、香港二割	
紙卷煙草	三一、二六三、〇二七	米國五割、加奈陀一割五分	
米及粳	二九、五八四、〇九三	香港九割	
石炭	一五、〇四一、八三四	日本七割	
鐵及鐵製品	一四、六〇二、〇五八	米國、日本、英國、香港	
海產物	一四、一七九、六一六	日本三割、香港五割	
熟皮	一〇、八二九、三七一	香港五割五分、日本四割	
機械類	六、五四〇、一〇八	英國、日本、香港、米國	
棉花	六、四〇六、二二四	日本五割、印度二割	
藥材	五、九三七、二一一	香港五割、日本四割	
各種袋類	五、七九八、六六三	日本四割七分、印度、香港之ニ次グ	

燐寸	五、七八五、八八七	日本八割、香港一割	
人參	五、七六五、五九二	朝鮮五割	
紙	五、六四八、一五六	日本七割、香港一割五分	
裝身品	五、〇九一、七一六	日本六割、香港二割	
茶	四、八三九、八八五	印度五割、海峽殖民地二割	
木材	四、四二一、三〇七	日本五割、香港一割	
電氣材料品	四、三七八、三九一	日本六割	
煙草	三、七三五、四七九	米國四割、香港二割	
石鹼及其材料	三、七二二、九九四	日本四割、英國三割	
珈琲	三、一七八、九二九	日本六割、米國一割五分	
靴下	三、〇五八、〇〇二	日本六割、香港三割	

而して右は支那稅關より見たる同國重要輸入品の觀察なるが、更に之を大正六年中本邦對支輸出品統計に徵するに左の如きものあり。

○大正六年中本邦對支輸出品別表

品名	支那へ	關東州へ	香港へ
綿織糸	八、八〇一、三二一圓	三、三六、二八二圓	一三、四一三、八六〇圓
綿布類			
白木綿	八、〇九九、二三七	二、三五五、六二七	八、五六一
天竺布	六、三一〇、六九一	二九二、五六九	三三七、七五八
色木綿	五二四、〇一四	四四五、八五七	六、一八四
縞木綿	一、三四三、五九六	六八七、五三三	一五七、六八六
生シーチング及金巾	二七、五六六、一二五	一、三九七、七三八	一〇九、一九六
綾木綿	三、六七一、四六七	一、一六六、五〇一	三六八、六七一
更紗	四、六八八、六六三	六三三、八二一	—
被覆布	五三一、九八三	一四八、二七四	一〇九、九一九
綿ブランケット	五六〇、七五五	一八〇、八六七	四三一、八五一
綿フランネル	四、三三八、〇一一	五一九、七七五	七五七、六三〇
絹綿繻子	一、一八九、三六六	二一四、八八七	—
紙類			
模造洋紙	四、〇八八、九二七	九四五、五八八	一、四〇五、〇四〇
巡史紙	三三一、二五六	三八八、一九九	—
鳥の子紙	二九八、〇三二	三〇、六六二	四九、三三〇
板紙	三二七、七二五	七〇、九五九	六七、一二八
煙草用紙	四一四、〇六一	—	二四一、五〇四
硝子製品			
硝子罐	四一五、八二五	四六、三九五	三三四、六二〇
硝子鏡	七六三、七一五	一六五、三八七	五〇、四五四

硝子コップ	一〇〇、一四二	二九、七九一	七九、一四五	
石油	一、二〇九、四〇一	五八二、九二一	—	
銅（塊及錠）	六、三六三、八二九	一二六、〇五七	一四七、二二六	
製革	一、七八五、七七七	四二七、一六一	二〇、三九二	
毛絲	一、〇〇五、四一一	六九六、三五七	一五四、四五一	
浴巾	一、〇九六、九〇二	一八〇、三九二	五四八、一二四	
綿莫大小肌衣	一、八〇三、六二三	六七五、五六四	八〇四、〇五三	
羅紗及セルヂ	一、六二四、〇一一	五〇七、四九〇	二九、〇五一	
帶子	一、〇七二、五三六	三五八、五八九	—	
靴足袋	二、三二、四三三	二五二、〇五四	一九二、七二五	
手袋	八七〇、六七〇	一六二、七六八	四一、七八九	
燐寸	四、〇八四、三六一	六四三、六五四	—	
靴	一、三五二、〇四八	—	七九、七四一	
洋傘	一、六六一、九一六	三五〇、〇五七	四九八、三〇一	
陶磁器	一、二五九、〇一七	—	二三六、八五一	
珐瑯鐵器	七五七、〇七一	六三、七九六	五六、四四五	
護謨タイヤー	一、三二三、〇一五	五六六、一八〇	一三八、六八四	
絶緣電線	一、三二九、二二一	九六、八七九	一八〇、三五五	
置時計	六八七、四六三	三七八、三三四	五五〇、五六八	
化粧石鹼	二、四四七、五〇〇	三、九八二、一一〇	五二、五六五	
精糖	一七、五二一、一〇六			
海產物				

鰯乾鮑	一、一二一、九四一	七、七六四	二、五七七、三三二	
海參	三六、五二四	—	二八七、八〇五	
乾鰕	六二五、一四四	六、九九二	一〇、九六二	
鱗鰭	三三〇、二八三	二、二八〇	一六五、二七三	
鰭	三三、七四五	—	二三〇、六〇七	
鰐貝	一七二、六八六	二、七四一	四六六、九三〇	
柱	三九〇、四九〇	三〇五、八八〇	六、七五六	
布	二、六八八、八八六	三五、二七六	六二、八九〇	
昆				
木材	一、三六、三八〇	五八三、六八四	一〇、五六五	

綿織絲

綿織絲は本邦對支輸出品中の大宗にして大正六年に於ける輸出額は實に一億圓以上に達し年と共に輸出益伸張す。從來支那に於ては印度絲の勢力大にして千九百九年（明治四十二年）以前にありては本邦綿糸の支那に於ける輸入額印度綿糸の半ばにも達せざりしが、其後本邦綿絲は次第に各地に販路を擴張し遂に印度綿絲を凌駕するに至れり。

本品の支那向輸出は大體中部支那へ六分、北支へ三分、南支へ（香港仕向を含む）一分の割合にして輸出品の品種も亦仕向地により異れり。卽ち中支への輸出品は十六手、二十手を主とし、南支へは十手、十二手、十六手の輸出多く二十手は少し。單糸の四十手と瓦斯糸の六十手及八十手

も亦仕向けられ概括して言へば支那向輸出品は十六手及二十手の二品伯仲の間に在りて總體の七分通りを占め、十六手以下の大糸は支那市場に於て自國製の出廻るあり、殊に大正六年の如きは支那製綿絲割安なりし爲め本邦糸の賣行に影響する處大なりき、然れども細糸は近來支那民度の向上に連れ需要激增の趨勢にあり。わけて歐州品の輸入減少せる以來一層賣行增加の傾あり。就中賣行好望なるは四十手、七十手、八十手等なるが、其他四十二手、六十手等も機業割合に發達せる北支方面に向け兩三年來需要增加せり。

本港に於ては大正元年十二月資本金壹百萬圓を以て長崎紡織株式會社創立せられ專ら支那向綿絲の生產に努め大正五年十一月更に壹百萬圓を增資し、創業當初二千二百錘なりしものを擴張し七萬五千錘の增設を企て、目下機械到着に從ひ順次操業に着手し運轉錘數の增加に努めつゝあり。其製品は既に大正二年末來輸出せられて今や本港貿易品中石炭及海產物と共に三大重要輸出品の一に數へらるゝに至れり。大正三年以降當港綿織絲の輸出額左の如し。

○長崎港綿織絲對支輸出高表

年次	輸出額	輸出額		支那へ		香港へ	
	數量	價額	數	數量	價額	數量	價額
大正三年	七五七、五八五斤	三〇九、二六三円	三五五、〇〇〇斤	一五三、四〇〇円	三六二、五〇〇斤	一五五、八三五円
大正四年	三、六五二、一二〇	一、四八六、六五六	九三二、七六〇	三七八、八三五	二、七九、八〇〇	一、一〇七、五七〇
大正五年	二、七三二、九三〇	一、二九九、二七三	五二〇、三〇〇	二四〇、一二〇	二、二一二、六〇〇	一、〇五九、一四〇
大正六年	三、一二五、四七七	二、三五九、八一四	三三六、〇〇〇	二八三、六二〇	二、七九九、一〇〇	二、〇七五、七六九
大正七年	一、九二〇、五六〇	二、二一七、八七五	四五、六〇六	五四、五七五	一、七二一、五〇〇	一、九六三、八四〇

支那に於ける日本綿糸の勁敵は印度綿糸と支那產綿糸なり、印度綿糸は夙に支那市場に雄飛し確固たる地盤を有し、且又棉花の產出ある爲め最も有利なる地位にあり。只日本糸は印度糸に比し色白く品質一定し彈力强くして染付良く、加之一俵の量目印度糸は普通三百斤なるに日本糸は風袋を除き平均百十五斤乃至百十八斤なるを以て、之等の點が需要者の嗜好に投し、次第に販路を擴大するを得たるものなれば、將來亦此點に於て印度糸と拮抗し益其輸出を增加する事敢て難事とせず。又一方支那に於ける紡績業は近來益發展して現時錘數百二三十萬本に達し殊に兩三年前迄は全錘數の六割を運轉するに止りたるに大正六年に到りては綿糸の好況に促され殆ど全部運轉し、大正三年の頃一ヶ月僅々二萬俵の生產を見たりしもの大正六年には一ヶ月四萬俵の製造能力を有するに至れり。而して同國紡績事業は今後一層の發達を見るべく、傍ら棉花の改良作も其成績の上に有利なる結果を來すべく、支那に於ける斯界の將來は決して輕々に觀過すべからず。太糸の如きは既に支那製品を以て自國の需要を充しつゝあり只番手多きものに至りては尙到底支那に於て生產する能はざるべきを以て此方面に於て十分我紡績業者の發展を遂ぐべき餘地あり。

綿布類

綿布も亦我が對支輸出品中の主要なるものゝ一なり。我が綿布が支那に於て勢力を占むるに至れるは日露戰爭以降の事に屬し、就中滿州に對する輸出の增加は同戰役後我が當業者が一致協力從來勢力ありし英米兩國品を驅逐したるが爲めにして、爾後滿洲並に北支方面に於ける本邦綿布の勢力頓に加はり、近來益支那市場に雄飛するに至りしも、然かも之を統計に徵すれば本邦よりの輸入額は其總輸入額に比し未だ甚だ多しとせず、將來更に販路を擴張し得べき餘地十分なり。

左に本邦輸出綿布類の支那に於ける需要狀況を概說すべし。

(一) 白木綿

本品の支那に於ける需要は滿洲及北部支那を主とし、就中滿洲最も多く、長江沿岸地方の需要は少し、是等輸出品は大尺布、中尺布、套布及其他の綿布なるが、就中大尺布其大部分を占む。同品は幅十八吋、長さ概ね二十一碼乃至二十二碼にして近來次第に長きを好む傾向あり。匁付は五百六十匁以上六百匁迄のもの多し。中尺布は幅十四吋、長さ二十四碼乃至二十五碼、匁付三百八九十匁乃至四百匁位。套布は幅十三吋乃至十三吋半、長さ六碼四分ノ一、匁付百三十五匁位のものなり。

大尺布は主として滿洲に仕向けられ、同地にては相當勢力あるも同地以外にては上海上布との競爭上輸出困難にして未だ捗々しき發展を見ず。滿洲に於ける販路は從來南滿鐵道の沿線を主とし、輸出總數の四分ノ三は安東縣を通過し、奉天、鐵嶺、開原、長春、哈爾賓等の各方面へ輸送せられ、大連及營口より輸入せらるゝものは殘餘の四分ノ一に過ぎず。然かも營口輸入のものは大抵同地にて賣買せられ、大連輸入のものも其更に奥地へ輸送せらるゝ半數に過ぎず、中尺布は主として哈爾賓及安東縣を仕向地とし、套布も亦多く哈爾賓に仕向らる。本邦大尺布が需要地に於て支那土布の競爭を受けつゝあること前述の如く、卽ち支那土布の滿洲出廻りは年々增加し、目下營口、大連へ入るもの毎月二萬乃至三萬俵にして年額三十萬乃至三十五六萬俵にも上れるに、日本大尺布の供給は僅に十萬俵に過ぎず、常に支那土布の爲めに壓倒せらるゝ有樣なり。蓋し是支那土布は製品の上下を問はず、一俵平均相場にて賣出し居り本邦大布尺に比し割安なるが爲めなり。

(二) 天竺布

本品は北部支那に於ける需要多く、仕向先も天津、青島、芝罘、上海を主とし、其幅二十九吋乃至三十二吋、一反の長さ二十四碼にして、其用途に小麥紛袋地用と衣服地用との二種あり。前者は一反の匁付六封度以下、後者は六封度乃至七封度位のもの多く、上海、香港、哈爾賓向は重に袋地用なるも其他は大抵衣服地用なり。

支那に於ける本品の競爭品は英國製、印度製及支那製品なり。英國品は主として衣服地用に用ひられ、印度品は品質本邦品より稍可なるも、純白を尙ぶ麥粉袋用としては寧ろ日本品に劣るものあり、爲めに近來日本品に壓倒せられつゝあり。支那產は直隸省高陽附近の高陽布最も名あるも、本邦品に比し高價なる爲め小麥粉袋用としては殆ど本邦品獨步の姿なり。

（三）色木綿

本品は專ら支那及關東州方面向のものにして從來染色大尺布多數を占めたるに、近來其輸出減少して在外邦人向衣服、蒲團の裏地、其他の小巾色綿布主として輸出せらるゝに至り、前年來は又一種の染金巾にして素紬布と稱するもの二十八吋、幅三十碼物（淺黃、水色、黑鼠等に染色し强き糊を施し艶出仕上をなせしもの）歐州品の代用として賣行き增加せり。

（四）縞木綿

本品中多數を占むるは寧波布及膠布の二種にして、支那に仕向けらるゝものは多く寧波布なり。幅二十七吋、長さ二十碼。支那向は鼠地、白地の立縞最も需要あり。

（五）生シーチング及生金巾

本品は上海向を主とし其外漢口、天津、靑島、大連等の各方面へも仕向けられ大體に於て生金巾（細布）多數を占む。同品は通例幅三十六吋、長さ四十碼、匁付十二封度位より重きは十三封度半迄なれど輕きは七封位のものあり、此種の輕目ものは幅三十八吋、長さ三十八碼のもの多く、俗に之を市布と稱し居れるが、近年其需要著しく增加せり。シーチング（粗布）も寸法は生金巾と同樣なれども匁付は十三封度もの大部分を占む。

本品の競爭品としては米國製及支那製品あり、米國製品は滿洲に於て本邦品に驅逐せられたるも北支及中支に於ては尙多大の勢力あり。

（六）綾木綿（雲齋布）

從來普通の綾木綿（ドリル）は支那に於て本邦品大いに勢力を占めたるも、細綾（ヂーンス）に在りては英米品常に勢力あり、戰時漸く其出廻り減退するに及びて本邦產ヂーンス之に代り輸出大いに增加せり。殊に大正六年の如きは對支輸出の割合ドリル四分、ヂーンス六分の成績を示したり。

ドリルは幅三十吋、長さ四十碼、匁付十三封度乃至十四封度を普通とし、ヂーンスは三十吋幅四十碼のものを建となせども、仕向地に依り三十吋幅、三十碼を好む處あり、匁付も八十封度以上十三封度位迄のものあるも、普通は十二封度位のもの多し。本邦製ヂーンスの上海仕向高は戰前僅かに上海輸入高二百二三十萬反の一割に充たざる少數を占め他は悉く英米よりの輸入品なりしが、時局以來英米品の激減に反し本邦品之に代り今や兩數の輸入數量略相匹敵するに至れり。

需要は北支那に於て最も多く、滿洲、中支之に次ぎ、南支方面に少し。其用途は紺、黑等に染めて下流社會男女の常服とし、又襦袢、足袋、靴底等に用ひらる。

ドリルは既に戰前より本邦品勢力を占め支那需要の大部分を供給し來れり。

（七）更紗

本品は近來本邦に於ける製造の進歩に連れ、印度南洋等の各方面へ輸出を試むるに至りしも、割安なる外國品の競爭ありて全然失敗に終りたる經驗あり、然るに時局以來獨逸品先づ杜絶し、英、露製品の出廻亦減少し、本邦品の賣行俄かに增如し殊に支那に對する販路大いに擴張せられたり。本品は殆ど二十八吋幅、三十碼物に限られ他は三十吋幅、三十碼物多少の需要あるのみ。柄は大柄のもの多く小柄のもの少く、婦人衣服用として殊に夏着用に用ひらる。

（八）被褥布

本品亦歐洲品出廻り杜絶の影響により支那、哈爾賓方面の賣行き殊に增加せり。支那に於ては兩三年來上海附近に於て支那人の手によりて製造を開始せられたれども未だ見るべき成績を示さず。

本品は皆紋織にして支那向としては近來幅五十吋、長さ七十五吋、匁付一貫八百匁と幅五十六吋、長さ七十八吋、匁付二貫四百匁との二品賣行き多く、白地の外に色敷布、縞敷布も共に賣行增加せり。

紙類

支那に於ける紙類の需要は近年益增加し來れるも、從來獨逸、瑞典、墺匈國製品等の競爭あり未だ本那製品の發展を見る能はざりしが、時局以來其等外國品の供給杜絶し、茲に本邦品の活躍を示すに至れり。

（一）模造紙

本品中主なるものは新聞紙、普通印刷紙にして其他筆記用紙類等あり。支那に於ては三十六封位のものを新聞紙、繪草紙、煙草包裝紙等に使用し、此種最も需要多く、五十五封度以上のものは需要少し。

（二）連史紙

本品の支那に於ける用途は包紙、印刷用及窓張用等にして、原紙縱二二十五吋、横四十四吋あり、九十六枚を以て一刀とし、十五刀を以て一包とし、二包又は四包を以て一梱とす。但本品は折疊みありて容積大きく、運賃を要する事多く且つ印刷の際不便なる爲め近來平判なる有光紙を便利なりとし漸次之に轉するもの多く、輸出次第に減少の傾向あり。

有光紙は富士製紙の竹ロール、九州製紙の花ロール等孰れも南北支那を通じて賣行よく、殊に

上海仕向のもの大多數に上る。

（三）鳥の子紙

本品は主として紙幣用に用ひらるゝものにして其寸法區々なるも普通賣行き多きは二尺三寸二分の一尺八寸三分物（G）、二尺一寸五分の一尺六寸七分物（F）、一尺九寸の一尺五寸物（D）等にして是等は又其一連の重量により一號より三號迄に區分せられ、支那向としてはG一號の三十六封度物最も需要あり。

（四）板紙

本品の支那に輸出せらるゝものは大部分藁製黃板紙の厚物にして、岡山製紙、東京板紙、博多製紙、北越製紙、西成製紙等の製品を主とす。本品亦其需要支那に於て最も多し。

（五）東洋紙

本品は本邦輸出品として僅かに十五萬五千九百五十圓（大正六年）の輸出總額を算するに過ぎざれども其殆ど大部分は長崎港の輸出に係るものにして卽ち左の如し。

長崎	三四七、二四四斤	一五五、二三四圓
神戸	一、五〇〇斤	五四四圓
大阪	六〇〇斤	一七二圓

而して當港輸出の大部分は又支那仕向に屬す。左に最近五ヶ年間の統計を示す。

○長崎港東洋紙對支輸出高表

年次 ＼ 輸出額	對支輸出額			輸出總額		
	數量	價額		數量	價額	
大正二年	四〇七、二六五斤	一三七、〇九一円		四〇九、八二三斤	一三七、九五二円	
大正三年	三九二、四五九 〃	一三五、九七九		三九二、四五九	一三六、〇〇七	
大正四年	三〇〇、八五五	一〇三、三六八		三〇〇、八五五	一〇三、三六八	
大正五年	三二六、七二〇	二一八、六二三		三二七、三二〇	二一八、八四二	
大正六年	三四五、四四四	一五四、四八四		三四七、二四四	一五五、二三四	

茲に東洋紙とは楮皮を以て製したる薄手の和紙を謂ふもにして、堅一尺二寸、横一尺四寸位、耳は粗造にして切斷せずと雖も支那人は却て之を喜ぶ風あり、而して本品の特色とも見るべきは純粹木漉にて木質纖維のみを以て構成せられ、甚だ强靭なるの點にあり。支那に於ては之を傘張り箱張り其他種々の包紙、煙火製造包紙等に使用し、或は綿代用として衣類の間に之を挿むなど用途相應に廣し。

元來支那に在りては到る處紙の製造行はれざることなしと雖も、其原料多くは竹、藁、桑、檉樓及稀に綿花を用ふるものにして、本邦產の如く木纖維たる楮皮の如きものを使用せざるを以て

紙質强靭ならず、此點に於て到底本邦産に匹敵するを得ず、需要地に於ける本品の現狀は本邦産の獨占なりといふも過言にあらず、而して當港より上海に仕向らるゝは其九割迄筑後産にして筑前もの肥前ものは極めて少量なり。

硝子製品

支那民度の向上と共に硝製品の需要頓に增加し來り、同國内亦硝子工業の勃興を見るに至りしかども、支那人の工場は未だ尙幼稚にして將來益本邦品の發展すべき餘地十分なり。

(一) 硝子罎

本品の種類は藥瓶、化粧水入瓶、ラム子瓶、麥酒瓶等各種あれども、輸出最も多きは化粧品及賣藥用容器としての小瓶なり。

(二) 硝子鏡

支那人は鏡を需要する事多く然かも他の日用品の如く安價品を喜ばず、從つて比較的上等なる厚硝子製を好み、銅邊鏡と稱する眞鍮緣のもの、ニッケル臺付のもの、切子鏡等の如きもの輸出多し。サイズは三吋乃至十二吋位とし、就中正六吋位のもの最も適當なり。

製革及革製品

(一) 製革

本品は革命後著しく輸出增加を示したるが、之同國に於ける靴、鞄、馬具等の需要增加したるが爲めにして、其種類靴底革、甲革及胴鑑、帶、背囊用等多し。天津仕向最も多きを占む。

(二) 革製鞄

支那向としては各種形の品皆夫々の需要あれども就中上海へは土呂形、天津へは底折れ多く、汕頭へも上海と同じく土呂形多く、之に次ては服入の賣行きあり、香港へは服入及小寸の角形手提鞄多く、土呂形も小數の需要あれど概して支那内地向に此上等品の需要多し。

(三) 靴

革命後支那に於ける靴の需要頓に增加し、男子用の外女子用のものも相應に賣行あり、然れども多くは價格低廉なるを要す。將來は上等品に對する需要も益增加すべし。

雜貨、裝身具、化粧品類

(一) 綿メリヤス及肌衣

支那向として男子用は三箇ポケット付、立襟丸袖物の所謂街生シャツと稱するもの多く、色は淺黄、白、杏、茄子色、淡紅色にして、婦人用は襟、胸及手頸に刺繍を施し、色も男子に比し濃厚且派手なるを好む。尤も夏物としては皆天竺を用ひ白色大部分を占め、色物も極めて淡泊なるを好しとす。而して夏冬物共に前割と半割との兩樣行はる。

（二）タオル

本品は近來支那各地に製造業勃興し、相當の產額あれども技術尙幼稚にして手觸り惡く、且漂白不十分なり。輸入品としてはターキッシュ及桝織の二種あり、就中前者最も需要あり。幅は十二吋、十七吋及十八吋等のものを普通とす。北支向は大抵白地なれども、南支向は白地八分、淺黃紅梅等の色物二分を占め、二十經絲を用ひたる中等品最も賣行多し。桝織は英國品の輸入あれども「ターキッシュ」は殆ど本邦品の獨占なり。

（三）帶子

本品は支那人に限り使用せらるゝものにして其販路は近來長江筋に於て著しく擴大せられ、從前上海仕向の品は寧波、福建方面へ見本的賣行あるに過ぎざりしに、最近にありては遠く四川方面の奥地に迄賣行き、從來需要なかりし湖南方面にても昨今は長沙を中心として附近各地に分輸せらるゝに至れり。

本品は多く綿製品にして瓦斯絲製紋織は近來原絲高等の關係上輸出杜絕し居れり。寸法は八分、一寸、一寸二分、一寸四分、一寸六分、一寸八分等最も多く、其他二寸、二寸三分、二寸七分等のものあり、概して北支向は幅廣く南支向は幅狹きもの需要せらる。色は全體を通じて黑最多く北支向にありては黑八割、濃厚なる雜色二割、南支向にありては黑七割、春夏用向薄色雜色三割見當なり。

（四）靴足袋

本品は近來上海附近の支那人工場に於て製造するもの多く、本邦よりは只縞物、婦人向異形品、シャツ生地にて製せる衛生靴下及底厚裏靴下の如き上等品の賣行あるに過ぎず。寸法概ね男子用は八吋より十吋半、婦人用は五吋より八吋、色は男子用冬物は黑、濃茶、青鼠色あり、夏物は白なり。婦人用異形としては纏足に適する樣に工夫したるものあり大さ六吋より八吋迄二分ノ一吋宛の開きにて五種あり。

（五）手套

支那向としては莫大小手套を主として男子用は黑、茶、鼠、婦人用は黑、海老茶、紺、青等の半手袋賣行あり。

（六）洋傘

本邦より支那に輸出する洋傘は主として綿布張にして絹布張、絹綿交織張等は稀なり。骨も殆ど丸骨に限られ俗に櫻骨の並受と稱するものにて、寸法は二十五吋半を主とし、棕梠竹柄又は棕梠竹擬の柄を付したる品一般に觀迎せらる。概して中部方面に需要多く南部之に亞ぎ、滿洲及北支方面は降雨少きと、生活程度低きとの爲め需要比較的旺盛ならず。

（七）化粧石鹼

支那に於ける石鹼の需要は漸次增加し、國内に於ても之が製造事業勃興し來れり。殊に上海方面は漸次之が爲めに本邦品の需要少く、同地に仕向けしものは之を漢口、南京方面に輸送し、更に奥地地方に分輸しつゝあり。上海に次ぐは天津にして、此所よりは北京其他へ分輸せられ、奉天及同地以北に仕向らるものは重に朝鮮を經由し、大連等よりするもの少し。

前述の如く同國製品漸次市場に行はるゝと雖も、概ね劣等品のみにして、然かも一般の嗜好は次第に優良品を要求しつゝあれば、此點に於て販路開拓の餘地十分なるべし。

（八）香水

本品は時局以來獨逸品の代用として支那各地へ輸出せらるゝに至りしかども、概ね中以下の安物なる小壜二オンス乃至三オンス入及六オンス入位のアルコール製なり。

陶磁器

本品輸出の多數を占むる上海向としては珈琲茶碗最も多く、之に次ては三分六井、猪口、煎茶々碗、小深、急須類なり。天津向としては三寸、三寸五分、四寸、五寸の皿、バタ皿、五合、六合、七合入露國形急須、小深、猪口、菊形珈琲茶碗、露國形珈琲茶碗、三分六井、四寸碗等賣行あり。硬質燒肉皿類、同珈琲茶碗、バタ鉢は支那各地に賣行き、伊豫製大々本、上々本及琉璃の三分六碗、四寸碗は南支へは賣行少きも北支へは賣行多し。其他石鹼入も支那各地を通じて賣行き、殊に上海へは上等品北支へは安物の賣行多し。

支那は古來陶磁器を出し、支那式日用器具は多く同國產を用ひ、又優良品並に裝飾品は英獨の外國品を用ふるが爲め本邦品は從來多く其販路を求むる能はず。英、獨、露等より支那に輸入する陶磁器の種類は室内裝飾品並に洋食器類を主とし、就中獨逸品最も多かりき。蓋し英國品は夙に支那に於て其販路を開拓したるにより、又獨逸品は能く支那人の好尙に投し、品質堅牢價額比較的低廉なるより共に市場に雄飛したり。時局以降本邦品は之等外國品の輸出杜絶の結果其補充用として輸出增加を見たりしと雖も、戰後一層既往に鑑み、其嗜好と需要とに適應する製品の輸出に努めざれば、折角獲得したる販路を永く維持すること能はざるのみならず、再び外國品の競爭に厭倒せらるゝの恨あるべし。

林產物

（一）椎茸

本品も又長崎港の對支輸出品として指を屈するに足るものあり。其仕向先は上海及香港を主とす。最近五ヶ年間の輸出額左の如し。

○長崎港椎茸對支輸出高表

年次＼輸出額	支那へ 數量	支那へ 價額	香港へ 數量	香港へ 價額
大正二年	七四、五九九斤	四五、四九七円	七七、二九六斤	六七、六九五円
大正三年	七八、九一九	六四、一二六	八九、三六五	七五、七二九
大正四年	六〇、〇〇二	四一、七四九	五三、七二二	三七、六二八
大正五年	六七、一〇〇	五〇、〇一七	一二一、五〇五	七二、二六九
大正六年	七〇、六三二	六九、九一八	一〇七、一六八	九一、〇六八

本品は夙に支那人の嗜好に適し數十年來輸出し來れるものなるが、產額豐富なるに伴ひ益其輸出高を增加し得べき希望確實なり。其用途は鷄肉蔬菜等と共に混煮し食膳に供するものにして普通日常の食饌に使用するのみならず、厚肉の上物は又屢々宴席の調理に愛用せらる。然かも海產物の高價にして貴賤の階級により需要を異にするに反し、本品は價格低廉なるを以て各階級を通じ食用に供し、需要の範圍極めて廣汎なり。

本港より輸出するものに冬茹、香信の二種あり。冬茹は之を「ドンコ」と稱し笠の充分に開かざるものなり。香信は普通の椎茸を謂ふ。二者單に其製法形狀品位及價格を異にするのみならず、自ら其需要者を異にせり。卽ち冬茹は天日を用ひ乾燥製造したるものにして莖短く頭小さく且全體の形狀縮少にして通常椎茸の如く膨大ならず、又香氣も一見通常椎茸に劣るが如きも之を煮沸するに及びては芳香を有すること到底普通椎茸の比にあらず。殊に冬茹中花形と稱するものは最佳良にして價格又第一位にあり。

香信は其製法全く冬茹と異り金網の棚に廣け火力を以て乾燥するものにして其形狀膨大風味香氣亦冬茹に劣る。價格從て低廉なるを以て冬茹の專ら上流の嗜好に適し都會地に需要多きに反し香信は主として中流以下の需要に供せられ概して地方に輸送さる。

香港向は概して冬茹等の上等品賣行よく、同地より更に廣東地方に分輸せらる。上海向は一般に香信等の普通品需要多し。本品は年中賣行あれども最も需要多きは冬季より舊年末に至る間なり。

本品は福建、四川の兩省を初め、牛莊地方其他內地到る處に產し其種類亦甚だ多しと雖も、就中福建省福州を最とし之に亞くは全省延平府建寧府等にして秋菰、冬菰の二種あり、孰れも香港上海の市場に出荷し本邦品と相對峙して競爭の地位に立てども、其香氣稀薄、滋養分極め少く、品位劣るを以て一度本邦品を口にしたるものは殆ど顧るものなく、年々本邦品の需要を增加し、前途益有望なり。

本港に集散するものは豐後產を主とし、對州、肥後、日向物等之に亞ぐ。

（二）木炭

本品は長崎港の對支輸出品として近來相應の地位を占む。最近五ヶ年間の輸出額を見るに左の如し。

○長崎港木炭對支輸出高表

年次	數量	價額
大正二年	八、六五二、二四三 斤	一〇四、一五八 円
大正三年	七、五四四、四二〇	九〇、七二八
大正四年	三、七八四、三五〇	四五、一二〇
大正五年	六、六七七、二〇〇	七七、六一〇
大正六年	五、一八二、一九八	九七、九四九

本品の仕向先は上海を主とし、白炭及卷込の二種なり。長崎港に集散するものは熊本縣下の產を第一とし、縣下產、鹿兒島縣產、福岡縣下產、等之に次ぐ。

附記

一、尙長崎港對支貿易品中輸出に於て海產物及石炭、輸入に於て豆類、肥料及獸骨に關しては別卷「長崎に於ける海產貿易」、「長崎に於ける石炭の集散」、「長崎に於ける米麥及雜穀」並に「長崎に於ける肥料及獸骨」の各篇に於て之を記述せり、就て參照せられたし。

二、尙長崎港對支貿易狀況を記するに當りては同方面に對する運輸交通關係及之に關する諸般の設備をも說明せざるべからずと雖も、之等は寧ろ別卷「長崎港最近二十五年概觀」中に於て記述するの適當なるを信じ、玆に是を省略せり。之亦彼此參照せられんことを乞ふ。

326
318

大正八年一月三十日印刷
大正八年一月卅一日發行

（非賣品）

著作編輯兼發行者　長崎市西古川町十一番地　本山豐治

印刷者　長崎市大浦町二十六番地　河部直吉

印刷所　長崎市大浦町二十六番地　東友舍

發行所　長崎商業會議所

326
318

終